

建設産業 加速する働き方改革

ICTを活用

3Dで測量、設計データ作成
専門チーム設置

体が減少する中、労働力の全
少が高度化により労働力の
削減や休日の増大などの労働
環境改善を図るためには、業
務の効率化による生産性の上
が不可欠だ。その手段の一つ
として、建設現場では情報技
術を駆使してICT活用が急
速に進められている。

1903年にわたって地域以来、
20年間にわたっての地蔵のイ
ンフラ整備に従事する成建（大
垣市）は、ドローンや3次元計
測器を活用し、3Dの現況成
像や3D設計データの作成、
ICT建設機械などの施工な

3D設計データを作成する岐建土木部フォローアップグループの平野友佳鈴さんとICTアドバイザーの高木和弥さん＝岐阜市、東海環状城田寺地区道路建設工事事務所

作業負担を軽減、若手活躍の場に

の経験者、フリーターで年間フルタイムに相当する現場友伴さんには現在、機種の更新を担っている。そのための調査は、3D設計データの作成を業務とされた上で、これが実務として建設では、フロアアップクルによる柱などの内注に取り組むという社内文化での施は、コストダウンを図ることに至る。現在の技術者の意識レベルもシステム化、円滑な作業にながら、まだI/Cに関わる仕事を他部署が行うことで、現場で働く技術者の素養は大きく離れて、業務の標準化も実現できていないという。

I/C建設現場は、3D設計データを取り扱うリアルタイムの計画と位置情報を合わせオペレーターに正しい操作を自動でコントロールしたものをいう。3D設計データを用いることで、これまで展示するための行っていた

現在、入社1年目と4年目の若手技師が各々あるI/C建設業者では、最新の監視技術者の養成や研究は「I/C建設現場は、経験のない若手でも動かす」ことが得意点だと大田利典、I/C建設現場があれば優秀な人間員やベテランの技術者が必要となると導く意義を大感することになる。また、若手技師がI/CCT化に必要なプラットフォーム機器など情報機械類への活用にも抵抗がない習得スピードも早いと言いつつ、高木氏は「今後、I/Cの広まる場としては、広がるはず」と、若手技師の育成を進めていく姿勢だ。

オペレーターは可能なら誰かの代わりで作業が可能となるだけで作業は自動化されるだけでなく、位置情報と同じ場所を何回も訪れたかを確認し、コントロールすることができ、

6月間接
ディメンズ

ール

ドローン操縦 中学生に指導

出前授業 建設業の今“伝える”



出前授業で「トイストーリー」を観
操作体験する生徒たち＝大
垣市西崎町、興文中

「重労働で長時間勤務のイメージがあったが働き方改革もすっかり行っていることが分かった。実際に建設業で働いている人の地域の生活を豊かにしたい」という思いも知れた」と話す。

また、プログラミングをして自動で飛ばしドローンや、機動力に優れたレース用のドローンの作りを自分の手にした。2年生の高橋菜々美さんは「ドローンの操作は思ったよりも簡単で楽しかった。電線の点検でドローンを活用することからで広い範囲を細かく調べられることも知った」と関心を示した。



オペレーターは運転席のモニターを見ながら作業の進ちょくを確認する

仕事の魅力 SNSでアピール

県では、建設産業における人材確保を図るとともに、2017年からの労働環境の改善や人材育成に取り組む企業を「きよ建設人材育りリーディング企業」として認定している。認定企業は、労働環境の整備・処遇改善、積極的な人材確保・育成、魅力ある建設現場等の環境づくりといった三つの認定評価項目で審査され、達成度に応じてゴールド・シルバー・ブロンズにランク付けされる。今年11月までに315社が認定を受けており、認定事業者はハローワークの求人票に認定されていることを表記できるほか、認定証や認定マークを企業PRに活用することができる。

今年6月からは、認定制度や認定企業に関する情報をより広く発信するため、新たにインスタグラムのアカウントを開設した。現在は、各認定企業の取り組みや社内の雰囲気伝わる写真を投稿し、就職活動中の若い世代やその親世代に、建設産業の仕事や認定企業を知るきっかけづくりを行っている。

投稿の閲覧者には、県内はもちろん県外の人も多く、特定のハッ

ぎふ建設人材育成
リーディング企業



シュタットには人気投稿にも選ばれるなど、好評を博している。県の担当者も「これまで行ってきたリアルなP活動では、見てもらえる対象が限定されていたが、SNSを活用することで今までアプローチできていなかった層にも情報を見てもらうことができる。」今後もリアルとネットをうまく組み合わせて、広く情報を発信していきたい」と発信力を高める。今後は、県内の建造物や働く技術者の写真など、建設産業の魅力が伝える多様な情報を投稿し、業界のイメージアップを図りたいとしており、さらに多くの人に関覧してほしいと呼びかける。

インスタ開設、県内外に発信